

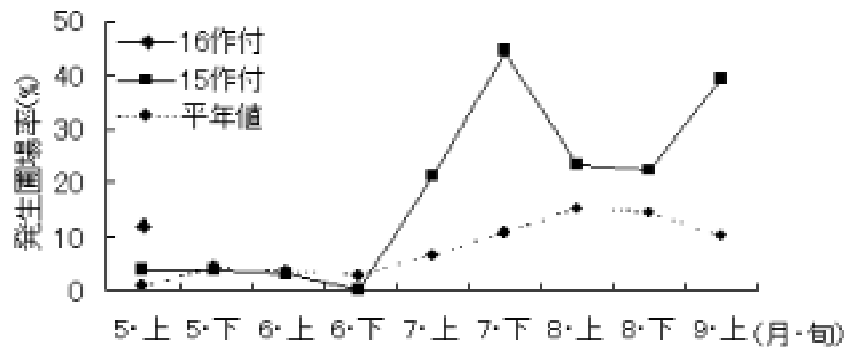
注 意 報

平成16年度病害虫発生予察 注意報第3号

いちご 炭疽病

(病原菌名: *Colletotrichum acutatum*、通称: 葉枯れ炭疽病)

1. 発生地域 (対象地域) 県下全域
2. 発生程度 やや多
3. 注意報発令の根拠発生状況
 - 1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.6% (平年0.0%)で、発生圃場率は12% (調査圃場33筆)であった (図)。
 - 2) 巡回調査で国見町、瑞穂町、診断依頼で諫早市における発生を確認した。また長崎農業改良普及センターによると西海町でも発生が確認されており、例年よりも早く広域で発生している。
 - 3) 昨年は県内各地で本病が多発しており、育苗圃場などにおける病原菌の密度が高くなっていることが予想される。
 - 4) 気象予報によると向こう1か月の予想は降雨量は多く、日照時間は平年並か少し見込みで、本病の発生に好適である。



巡回調査におけるいちご炭疽病の発生圃場率推移

4. 防除対策
 - (1) 育苗床が多湿にならないように、密植を避け、排水対策を確実にを行う。
 - (2) 高設育苗や全面マルチを行い、降水等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。
 - (3) 発病葉は速やかに処分する。ランナー切り離し後、発病株は健全株と分けて管理する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
 - (4) 定期的に薬剤防除を徹底する。*C. acutatum*による炭疽病に対して、パイコラル水和剤は防除効果が低いので注意する。